

総務部門

Q 無料シャトルバスについて

A 県と協議しながら見直しを図っていききたい (石井地域振興課長)

Q ふでりん号 (無料シャトルバス)の乗車効率など、実施状況の報告を求める。また、住民からふでりん号のコース変更などの要望があるが、町として今後の展望を問う。

A 4月からの運行日数は45日間で、総乗車人数は852名、1便当り2〜3名の乗車である。またコースは、2カ月ごとに見直しを行っているが、現状ではコース延長、便数の増加は難しい。無料シャトルバスについては、雇用機会の創出を目的とした3年間の事業だが、利用状況を見ながら、来年度以降は違う形も考えていきたい。

Q 地域経済の活性化について (プレミアム商品券)

A 今後も消費拡大に繋がるような提案があれば協議していききたい (平町総務部長)

Q プレミアム商品券の回収内容の分析を急ぎ、再度、町内の消費拡大に寄与できる対策を検討する必要があると思う。町長はどのように考えるか。

A 大型店での利用率は約42%で、既存商店等での消費拡大に一定の成果があったと推測される。これはポイント等の特例付与などの販売促進セールや、各事業者の自助努力による効果と思われる。一方で、家電、自動車の利用率が約31%を占めており、エコポイントなど国の経済危機対策などの影響もあつたと考えている。これを機会に、消費拡大へ繋がるような提案があれば、協議していききたい。

藤本議員



民生部門

Q 老人クラブ連合会の会議室について

A 既存の施設を利用いただきたい (立花民生部長)

Q 老人クラブ連合会の事務所は、中央地域健康センター内の健康課横に設けており、会議等は老人福祉センターを借用している。専用会議室を設けて欲しい。

A 各種団体が専用する会議室を、現在ある公共施設の中に確保することは困難である。大人数の会議は老人福祉センターなどを、少人数の打ち合わせなどであれば、業務に支障がない限り、健康課内の協議机等を利用いただいてもかまわない。

Q 安芸消防署熊野出張所の改装について

A 広島市に要望していききたい (立花民生部長)

Q 熊野町は消防運営経費として、年間約3億円を負担している。消防業務等は良いが、建物が他と比較し汚れている。化粧直し等の改装をして欲しい。

A 熊野出張所は、平成19年度に耐震診断が行われており、広島市消防局では、平成23年度に耐震補強計画を策定し、翌年度改修工事に取り組みることとされている。この機会に外壁改修も要望していききたい。

Q 介護施設の整備計画について

A 地域密着型施設の整備を予定している (光本福祉課長)

Q 本年4月から、第4期介護保険事業計画による事業が始まったが、施設整備計画の内容は。

A 入所対象者を町内の被保険者に限定できる地域密着型施設として、認知症対応型共同生活介護施設(グループホーム)を2ユニット・定員18人と、通所を中心に介護職員等の訪問や泊まりを組み合わせたサービスを提供する小規模多機能型居宅介護施設を1カ所・定員25名以内をそれぞれ整備することとしている。

富士議員



富士議員



渡議員

